

## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number:

08097996 A

(43) Date of publication of application: 12.04.96

(51) Int. CI

H04N 1/32 H04N 1/00 H04N 1/44

(21) Application number: 06232585

(71) Applicant:

RICOH CO LTD

(22) Date of filing: 28.09.94

(72) Inventor:

HAYAFUNE TAKESHI

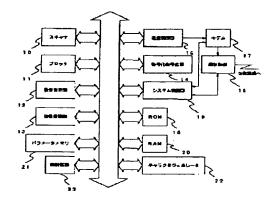
## (54) FACSIMILE EQUIPMENT

## (57) Abstract:

PURPOSE: To ease harmful effect due to univocal rejection of reception, receiving image information under certain conditions while rejecting reception of information of undesired source document, by receiving image information even if a specified sender is an unregistered one in the case where the value of count reaches a prescribed one.

CONSTITUTION: The facsimile equipment is provided with a reception number count means counting the number of times of reception from a sender when a specified sender is not registered in a sender registration means 21 and with a management information latch means latching identification information and a count through cross-reference, and also with a comparison means comparing the count with a prescribed value, and an image storage means 13 storing the received image information. When the count reaches a prescribed number of times, even when the specified sender is not registered in the sender registration means 21, the image information is received and stored in the image storage means 13. Thus, a defect of definite reception reject is relaxed while preventing occupancy of a memory.

COPYRIGHT: (C)1996,JPO



(19)日本国特許庁(과)

## (12)公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-97996

(43)公開日 平成8年(1996)4月12日

技術表示箇所

(51)Int. C1. H 0 4 N 1/00 1/32 1/44 106 B 觀別記号 庁内整理番号 겨 H

器査請求 未請求 請求項の数4 5

(22)出願日 平成6年(1994)9月28日 (21)出願番号

特願平6-232585

(71)出願人 000006747 株式会社リコー

東京都大田区中馬込1丁目3番6号

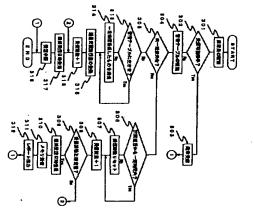
(72)発明者 早船 一 成市

ないコー内 東京都大田区中馬込1丁目3番6号 株式会

(54) 【発明の名称】ファクシミリ装置

により、一義的な受信拒否による弊害を緩和する。 ない場合であっても、ある条件下において受信すること を拒否すると共に、例え未登録で受信許可の対象となら ダイレクトメール等の不要な原稿情報の受信

手段と、上記計数値と所定値とを比較する比較手段と、 識別情報と計数値とを対応付けて保持する管理情報保持 元からの受信回数を計数する受信回数計数手段と、上記 の受信を拒否するファクシミリ装置において、当該送信 別手段とを備え、未登録が判定された場合には、画情報 が送信元登録手段に登録されているか否かの受信可否判 報に基づいて、送信元検出手段により特定された送信元 **手段と、回線接続時、送信元から送出されてへる識別情** っても画情報を受信し画像蓄額手段に保持する。 した場合には、特定された送信元が未登録の送信元であ 受信画像蓄積手段とを備え、上記計数値が所定回数に達 受信を受付ける送信元を登録する送信元登録



【特許請求の範囲】

特定された送信元が上記送信元登録手段に登録されてい いて、特定された送信元が上記送信元登録手段に登録さ 別情報に基づいて送信元を特定する送信元検出手段と、 登録手段と、回線接続時、送信元から送出されてへる節 手段に保持することを特徴とするファクシミリ装置。 未登録の送信元であっても画情報を受信し上記画像密教 た場合には、特定された送信元が上記送信元登録手段に る画像蓄積手段とを備え、上記計数値が所定回数に違し 定値とを比較する比較手段と、受信した回情報を蓄積す 応付けて保持する管理情報保持手段と、上記計数値と所 受信回数計数手段と、上記識別情報と上記計数値とを対 れていない場合、当該送信元からの受信回数を計数する 合には、画情報の受信を拒否するファクシミリ装置にお れた送信元が上記送信元登録手段に登録されていない場 るか否かを判別する受信可否判別手段とを備え、特定さ 【糖求項1】 受信を受付ける送信元を登録する送信元

持した場合、未登録の送信元からの受信回情報を保持し る請求項 1 記載のファクシミニ級領。 ていることを通知する通知手段を備えたことを特徴とす 【請求項2】 受信した画情報を上記画像蓄積手段に保

順を併せて通知することを特徴とする請求項2記載のフ 報の送信元を上記送信元登録手段登録するための操作手 ことを特徴とする請求項2記載のファクシミン装置。 報の印字或いは消去のための操作手順を併せて通知する 【請求項3】 上記通知手段は、上記保持した受信画情 上記通知手段は、上記保持した受信画情

(発明の詳細な説明)

[0001]

限を行うファクシミリ装置に関するものである。 するものであり、より詳細には、相手先に応じて着信制 [0002] 【磁業上の利用分野】この免明はファクシミリ装置に関

オフィスや笛店は勿論、一般家庭でもファクシミリ装置 れているか否か判定し、登録されていない場合には、受 クシミリ装置では、原稿送信の通信相手先が予め登録さ きない上、記録紙を含めた消耗品を浪費するという実趣 受信している間はファクシミリ装置を使用することがで あれば、配達された郵便物を単に破棄するだけで済む されてくるケースが増加してきた。以前のような郵送で 送されていたダイレクトメール等がファクシミコで送信 クシミリ装置の普及に伴い、従来であれば各受取人へ郵 を利用することが珍しへなへなってきた。しかし、ファ アクシミリ装置が従来より提案されている。かかるファ も発出する。 そいた、 いのような問題を解決すくへ、 密 えば特題平4-23674号に記載されているようなフ 【従来の技術】ファクシミリ装置の普及が進むに連れ、 ファクシミリ法律の場合には、ダイレクトメールを

8

特開平8-97996

は、無間に記録紙等の消耗品を浪費することがなくな **うにしている。従って、このファクシミリ接触によれ** り、上述した実容を解決することが可能となった。 その内容を確認して必要と認めた場合に限り印字するよ

8 決されない。かといって、未登録の相手先からの受信を 報の送受信の弊害となる可能性もある。 更に、上述した も、送信先がメモリ受信するために表面上は正常に送信 元から受信した原稿情報はメモリに保持し続けるため る。又、上述したファクシミリ装置では、未登録の送信 必要な原稿までもが受信されないという問題が発生す れるべき相手先からの原稿情報も全て拒否してしまい、 クシミリ装置が使用できないという問題は依然として解 情報を全て受信するため、その間回線が占有されてファ ァクシミリ装置では、結果的に不要なものも含めて原稿 してしまう。従って、送信した原稿が至急扱いであって が終了し、あたかも送信先で印字されたかのように錯覚 館を備えていることを予め送信元のオペレータが認識し 何れにしても、送信先のファクシミリ装置が上述した袋 依頼するか、メモリ受信した原稿情報を直ちに印字する 情報を送信する場合には、専前に送信先に対して登録を と、メホコのオパーフローが発生し、本来必要な原稿点 オペレータが内容を確認してファイル消去を行わない これらの原稿資根によってメモリが占有され、こまめに と、たまたま未登録であったものの本来であれば登録さ も、原稿情報がメモリに蓄積されたまま故置される恐れ 送信元オペレータは原稿情報を通常通り送信し、しか ペレータはそのようなことは全く知り得ない。 よって、 ている場合に限って可能なものであり、通常送信元のオ よう依頼せねばならないが、登録依頼或いは印字依頼の ファクシミリ装置においては、未登録の送信元から原稿 - 機的に拒否し、単純に回線の占有を防止しようとする 【発明が解決しようとする陳題】ところが、上述したフ

6 情報を受信することにより、一義的な受信拒否による弊 原稿情報によるメモリの占有を防止し、メモリの使用効 対象とならない場合であっても、ある条件下において画 回線の占有を低減すると共に、例え未登録で受信許可の 原稿情報の受信を拒否して不要な原稿情報の受信による めにないれたものためり、ダイフクトメール等の不要な を提供することを目的としている。 されたまま放置されることを防止するファクシミリ装置 としている。更に、本発明は、原稿情報がメモリに猶領 **率を向上させたファクシミリ装置を提供することを目的** している。又、本発明は、ダイレクトメール等の不要な **磨を緩和するファクシミリ装置を提供することを目的と** 【0004】本免明は以上のような不具合を解決するた

[0005]

信した原稿情報をメモリに蓄徴しておき、オペレータが 8 ける送信元を登録する送信元登録手段と、回線接続時、 【旗題を解決するための手段】上記目的は、受信を受付

とするファクシミリ装置によって達成される。 画情報を受信し上記画像蓄積手段に保持することを特徴 信元が上記送信元登録手段に未登録の送信元であっても と、受信した画情報を蓄積する画像蓄穂手段とを備え、 保持手段と、上記計数値と所定値とを比較する比較手段 識別情報と上記計数値とを対応付けて保持する管理情報 元からの受信回数を計数する受信回数計数手段と、上記 否するファクシミリ装置において、特定された送信元が 録手段に登録されていない場合には、画情報の受信を拒 否判別手段とを備え、特定された送信元が上記送信元登 信元登録手段に登録されているか否かを判別する受信可 特定する送信元検出手段と、特定された送信元が上記送 送信元から送出されてへる蔵別情報に基力いて送信元を 上記計数値が所定回数に違した場合には、特定された送 上記送信元登録手段に登録されていない場合、当該送信

徴とするファクシミリ装置によって遠成される。 であっても国情報を受信して上記画像警徴手段に保持 定された送信元が上記送信元登録手段に未登録の送信元 とを備え、上記計数値が所定回数に達した場合には、特 らの受信画情報を保持していることを通知する通知手段 を上記画像蓄積手段に保持した場合、未登録の送信元か と、上記計数値と所定値とを比較する比較手段と、受信 信回数を計数する受信回数計数手段と、上記識別情報と 登録手段に登録されていない場合、当該送信元からの受 クシミリ装置において、特定された送信元が上記送信元 録されていない場合には、画情報の受信を拒否するファ とを備え、特定された送信元が上記送信元登録手段に登 段に登録されているか否かを判別する受信可否判別手段 信元検出手段と、特定された送信元が上記送信元登録手 送出されてくる観別情報に基づいて送信元を特定する送 を登録する送信元登録手段と、回線接続時、送信元から し、受信画情報を保持していることを通知することを特 **した回情報を密積する画像蓄積手段と、受信した画情報** 上紀計数値とを対応付けて保持する管理情報保持手段 【0006】更に、上記目的は、受信を受付ける送信元

滞留してしまうことを防止できる。 **信したことを通知するため、必要な画情報がメモリ内に** 屋は、受信許可対象外の送信元からの画情報をメモリ受 けてメモリ受信するため、メモリの占有を防止しつつ、 あっても、受信回数が度盤なれば画情報の受信を受け付 は、例え受信許可の対象とならない送信元からの受信で 【0008】請求項2記載の発明に係るファクシミリ装 【作用】請求項1記載の発明に係るファクシミリ装置 義的な受信拒否による弊害を認和することができる。

タが直ちに必要な処置を描すことができる。 顧を併せて通知するため、通知内容を確認したオペレー 置は、メモリ受信した画摘報の印字或いは消去の操作手 【0009】請求項3記載の発明に係るファクシミリ装

【0010】請求項4記戯の免明に係るファクシミリ装

容を確認したオペレータが簡易な操作で登録操作を行な 象とするための操作手順を併せて通知するため、通知内 **置は、受信許可対象外となっている送信元を受信許可対** 

[1100]

構成例を示すプロック図である。 する。図1は本発明が適用されるファクシミリ鼓匠の--【実施例】以下、本発明の実施例を図面に基づいて説明

テリーでバックアップされ、ファクシミリ装置の制御に のワークエリアを構成するRAM、21は不図示のパッ ROM18のプログラムに従ってファクシミリ装置全体 信号の検出、回線の閉結などの公衆電話回線網との接続 を筋み取るスキャナであり、11は記録すべき画情報を 計時を行う計時回路である。 するキャラクタジェネレータ、23は日時や所定期間の リストの出力に際してコード情報をパターン情報に仮数 イ上への文字表示やプロッタ11からの各種レポート、 パラメータメモリ、22は操作表示部12のデイスプレ 必要な各種パラメータ、例えば、送受信の結果や送受信 を制御するシステム制御部、20はシステム制御部19 ム制御に必要なプログラムが格納されたROM、19は 高速モデムを備えたモデムである。更に、18はシステ の低速モデムと、主として画情報をやりとりするための 信制御部、17は伝送制御手順信号をやりとりするため する符号化復号化部、15は自動免替機能を備え、呼出 化する一方、圧縮符号化されている画情報を再生復号化 蓄積部、14は公知の符号化方式にて画情報を圧縮符号 るためのものである。又、13は画情報を蓄積する画像 に、オペレータに対して穏々のガイダンス情報を表示す り、オペレータが各種の情報や指示を操作入力すると共 は各種操作キーとディスプレイを備えた操作表示部であ 方式等で記録紙面に記録出力するプロッタである。12 レザー書き込み系を用いた電子写真方式或いは感熱記録 した原稿の枚数、画情報の受付No.などが格拠される - 丁勧告T,30等の所定の伝送制御手順を実行する通 I/F機能を有する網制御部、16は通信相手とITU 【0012】 同図において、10は所定の線密度で原稿

各ステップは、特に説明がない限りシステム制御部19 によって実行されるものとする。 トと、図2を参照しながら群近する。尚、図3における 【0013】次に、本発明の動作を図3のフローチャー

8 **韓別情報を検出し、この信号に基力いて送信元の確認を** 制御手順において、送信元からNSS(非標準機能股定 制御手順の一例としてITU~T勧告T.30を例に説 信号)が送出されるため、その中に含まれている送信元 明するが、かかる勧告自体は既に公知であるため、ここ では本実施例に関与する部分のみの説明に留める。伝送 すると回線を開結し、通信制御部16がモデム17を介 して送信元と伝送制御手順を開始する。ここでは、伝送 【0014】図3において、網制飼部15が碧厚を検出

> 信端末識別信号)やポーリングIDを用いることも可能 送信元識別情報としては、上記NSSの他にTSI(送 Sで送出されてくる送信元識別情報を例に説明するが、 行う(ステップ301)。以降、本実施例では上記NS

情報をプロッタ11から印字出力して受信動作を終了す 通り受信を行い(ステップ303)、直ちに受信した画 リ21内に設定された受信可能送信元テーブルに登録さ 録されている場合には(ステップ302YES)、通常 館送信元テーブルとは、オペレータが操作表示部12の れているか否かを判別する(ステップ302)。 受信可 である。確認した送信元が受信可能送信元デーブルに登 操作キーを操作して送信元の名称或いは電話番号を入力 し、受信を許可する送信元を予め登録しておくテーブル 【0015】次に、確認された送信元がパラメータメモ

が、これは説明のための一例に過ぎず、後述するよろに されている。尚、同図では3つの送信元が示されている の送信元から受信した最終日時と総受信回数が夫々格納 て、送信元識別情報機には上述したNSSから抽出した 理テーブルの一例を示したものであり、この管理テーブ 別する(ステップ305)。ここで図2を参照して質理 受信を重ねると所定数まで徐々に登録数が増加して行 情報が格納され、最終受信日時個及び受信回数個にはそ ルはパラメータメモリ21内に設定されている。そし テーブルについて説明する。図2は、本発明における管 当該送信元が管理テーブルに登録されているか否かを判 0)、次に管理テーブルを確認し(ステップ304)、 ープルで헢録されていない協合には(ステップ302N 【0016】一方、確認した送信元が受信可能送信元テ

御郎 1.5 ダー方的に回線を辺断して吸信製作を中断する 日時橋を現在の日時に更新し(ステップ317)、網制 デップ309NO)、時計回路23を参照して最終受信 し(ステップ309)、所定値に違していなければ(ス を1つカウントアップする (ステップ308)。続い **06YES)、ステップ307をスキップして受信回数** テップ308)。又、一定時間内であれば(ステップ3 ップ307) 上で新たに受信回数"1"を登録する (ス 信元の受信回数欄をリセットして"0"に戻した(ステ 登録されている場合には(ステップ305YES)、該 方法の他に、単位時間当りの平均受信回数や各受信間の 最終受信日時から一定時間以上経過したか否か判別する て、受信回数額が所定値以上となっているか否かを判別 による現在日時と比較して最終受信日時から一定時間以 当する送信元の最終受信日時欄を確認し、時計回路23 上経過している場合には(ステップ306NO)、 同送 (ステップ318) 。尚、ステップ306においては、

うな情報であれば何を用いても構わない。 であり、要は不特定多数の送信元を個別に識別できるよ 設定することが超ましい。 平均時間関隔に基づいて判断することも可能である。

【0017】再び図3に戻り、送信元が管理テーブルに

ダイヤルを繰り返すことを考慮し、少なくとも4以上に ミリ装置は送信未達となった場合に3回ほど自動的にリ 又、ステップ309における所定回数は、通常ファクシ

ម 2のディスプレイが比較的大面積の表示領域を備えてい 併せてガイダンスとして示されている。尚、レポート上 信元名称を参照することによって印字出力の要否を判断 表示された受信画情報の内容やその上側に表示された送 示され、下部には画像蓄複部13から読み出された受信 て画像器積部13に一旦器積する(ステップ311)。 報に変換して作成することができる。又、操作表示部1 に、時計回路23からの現在日時を読み出し、これらの びパラメータメモリ21から必要な情報を読み出すと共 部の文字情報は、システム制御部19が管理テーブル及 元を受信可能送信元テーブルへ登録する際の操作手順が 力する際の操作手順、消去する際の操作手順、当該送信 る。このフポートを見たオペレータは、フポート下部に たように、同レポートの上部には後述する管理情報が表 態たあっても、直ちに印字出力せず、オペレータの料剤 でき、更に、レポート上部には当該受信回情報を印字出 画情報の一部(例えば、先頭ページの一部)が表示され を印ぐために図4に例示したようなレポートをプロッタ 更新し(ステップ310)、送信元から画情報を受信し 時計回路23を参照して最終受信日時間を現在の日時に 以上となっている場合には (ステップ309YES)、 たば、フポートの印卦で代えてディスプフィ を用いるい ロード情報をキャックタジェネレータ22でパターン債 11から印字出力する (ステップ312)。図4に示し この受信画情報は例えプロッタ11が印字動作可能な状 【0018】一方、管理テーブルの受信回数額が所定値

たという状況から見て、同送信元は受信可能送信元テー **ブルへ登録すべき可能性が高いものと予測し、レポート** 知する。しかも、一定時間内に一定回数以上送信してき 送信元であっても、一定時間内に一定回数以上送信して レポートを印字出力し、画情報の存在をオペレータに通 きた送信元については、画情報をメモリ受信すると共に では、例え受信可能送信元テーブルに登録されていない て示すようにしている。 上に受信可能送信元テーブルへの登録手順について併せ 【0019】以上の説明からも明らかなように、本発明

50 日時から一定時間以上経過している送信元を抽出し、 0)、時計回路23による現在日時と比較して最終受信 かを判別し(ステップ313)、所定数の送信元が既に 理テーブルに登録されていない場合には(ステップ30 5 NO)、上述した管理テーブルにまた空きがあるか否 登録されていて空きがない場合には(ステップ313N

の送信元に関する送信元識別情報欄、最終受信日時棚、 【0020】一方、ステップ305において送信元が管

6

5

特闘中8-97996

出力の対象となり、メスフータの当難に応じて収益に結 **函された送信元が数回再送信を試みると、レポート印字** 行できる余地を残すようにしている。従って、受信が拒 録しておき、上述したステップ306以降のフローへ移 元については、受信は拒否するものの管理テーブルに登 では、受信可能送信元テーブルに登録されていない送信 されることになる。 送信元テーブルに登録されて次回の送信からは通常受信 【0021】以上の既明からも明らかなように、本発明

部12の操作キーを操作してファンクション75を入力 おいてフボート上で示されたガイダンスで従い媒作表示 **が当該送信元を受信可能送信元テーブルへ登録する必要** である。まず、図4に示したレポートを見たオペレータ 操作表示部12のディスプレイ表示の様子を示したもの 図5のオスレーションレローで絞った観覚する。 回図符 元を受信可能送信元テーブルへ登録する際の操作手順を され、キャラクタジェネレータ22を介して同図@のよ となり、管理テーブルから送信元識別権報が1つ読み出 する。すると、受信可能送信元テーブルへの登録モード があると判断した場合、図5の母で示された符機状態に 【0022】ここで、レポートを見たオペレータが送信 登録すべき送信元と異なる場合、操作表示部12のNO 受信から通常受信の対象となる。又、YESキーを押下 **元テープルへ転送され、同テープルに登録されて次回の** 該送렴元が管理テーブルから読み出されて受信可能送信 る状態で操作表示部12のYESキーを押下すると、当 ックに送信元が表示され、所望の送信元が表示されてい れる。回模にしてNOキーを丼下し続けると、サイクリ が1つ読み出され、同図@のようにディスプレイ表示さ キーを押下すると管理テーブルから次の送信元識別情報 ろにディスプレイ 表示される。 表示されている送信元が プレイ表示は当初の待機状態に復帰する。 せずにキャンセル操作を行うと、同図®のようにディス して豊穣操作が終了した後、或いは、YESキーを押下

を消去するモードとなる。これらのモードにおいて、図 模に特機状態からファンクション25を入力するとメモ されている受信國情報を印字出力するモードとなり、同 55を入力するとメモリ受信して画像蓄積部13に蓄積 リ受信して画像蓄積部13に蓄積されている受信画情報 【0023】又、図5〇の待模状態からファンクション

> ータメモリ21を参照して受付No.に対応する受信画 換作キーから入力すると、システム制御部19はパラメ を単なるオペレータへの通知手段としてだけではなく、 上の説明からも明らかなように、本免明では、フポート 像蓄積部13から該当する受信回情報が消去される。 力或いは消去する。尚、印字出力が正常に終了すると国 し、このアドレスに蓄徴されている受信画情報を印字出 情報が蓄積されている画像蓄積部13のアドレスを特定 4のレポートに示された受付No.を操作表示的12の

5 る。又、所望の送僧元を受信可能送信元テーブルに登録 ない操作についてのガイダンス手段としても利用してい フボートの日外田ガで伴ったオスフータが行むなばなら するだけで良く、わざわざ1文字ずつ入力する必要もな する際も、ディスプレイ表示に従ってYESキーを昇下

【0024】以上、実施例の説明からも明らかなよう

ఆ 段に、ステップ308及びステップ316における計数 に、受信可能送信元テーブルが本発明の送信元登録手段 が受信回数計数手段に、管理テーブルが管理情報保持手 手段に、ステップ302における判別が受信可否判別手 徴することもないため、ダイレクトメール等の不要な原 段に、ステップ309における比較が比較手段に、固備 の受信を受け付けてメモリに保持するため、メモリを効 元からの受信回数が所定値に違した場合に限って画情報 福情報の受信による回線やメモリの占有を低減すると共 外となっている送信元からの受信を拒否し、メモリに器 な相互関係を有することによって構成するものである。 モリ21、キャラクタジェネレータ22岁上浜したよう イ、システム制御部19、管理テーブル、パラメータメ 蓄積部13が画像蓄積手段に、夫々相当するものであ **率的に利用しつり、一義的な受信拒否による弊害を緩和** 【発明の効果】請求項 1 記載の発明では、受信許可対象 ステップ301における送信元の確認が送信元検出 又、通知手段は、プロッタ11或いはディスプレ 例え受信許可対象外の送信元であっても、同一送信

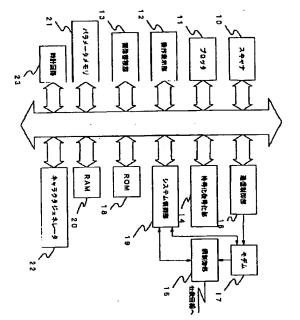
8 リ内に保持されたまま放置されることを防止でき、仮に をオスレータに通知するため、本来必要な画情報がメモ の操作を行なうこともできる。 保持した受信画情報が不要なものであれば、直ちに消去 となっている送信元からの回情報をメモリ受信したこと 【0025】請求項2記載の発明では、受信許可対象外

することができる。

5 **メスフータが別途特別な登録操作を行なわなへとも、質** の操作手順を併せて通知するため、通知内容を確認した となっている送信元を受信許可対象として登録するため 操作に際つて送りことなく処置を値すことがたまる。 め、通知内容を確認したオペレータが印字或いは消去の 画情報の印字或いは消去の操作手順を併せて通知するた 【0026】鯖水頃3記載の発明では、メモリ受信した 【0027】請求項4記載の発明では、受信許可対象外

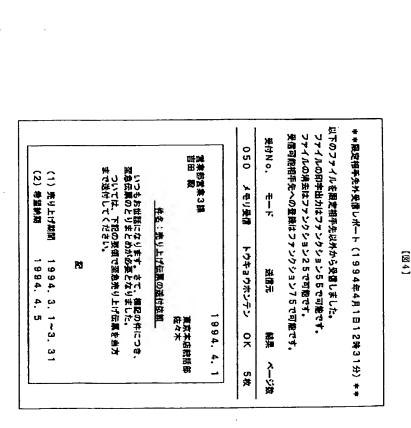
> 易な操作で登録を行なうことができ、次回からは通常通 り画情報を受信することが可能となる。 【図1】本発明が適用されるファクシミリ装置のブロッ 10 スキャナ 【図5】本発明におけるオペレーションフローを示した 【図4】本発明におけるレポートの出力例を示した図。 【図3】本発明の動作を示すフローチャート。 【図2】本発明における管理テーブルの一例を示した 【図面の簡単な説明】 【符号の説明】 5 20 19 16 Ç ROM モデム 路町門路 ハラメータメモリ RAM キャラクタジェネレータ システム無質的 通信即倒出 **选世组织** 符号化復号化部 画像踏積部 操作表示部 プロッタ

(⊠1)



(**2** 2

伊信回安	最終受信日時	送信元胜则情報
.10	4. 1 12:30 3.	トウキョウ ホンテン
07	3. 29 15:523, 15	ヨコハマ シテン
02	3, 15 19:41	オオサカ クテン



313 一定時間臨過したものを消去

央信回費リセット

ij

我国数+1

送信元淮列信祖の党段

洋南區灣十一

**经存货日间分割** 

10年にもよ

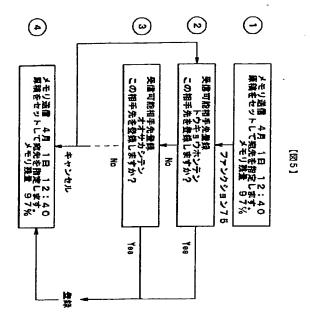
美国中島

m Z 305

管理サーブルに空を有了

8

特開平8-97996



特勝平8-97996

9